

## 初期「大陸往来」の一瞥（上）

——含・一九四〇～四一年度同誌掲載記事（作品）タイトル一覧——

大 橋 毅 彦

汪兆銘を首班とする「中華民国国民政府」が南京に樹立された一九四〇（昭和十五）年は、上海・南京の二大都市を含む「中支」地域における日本の文化統治（伝播）の在り様もまた、さまざまな広がりを見せるに至った年だった。たとえば、日中の「親善」を掲げた中日文化協会が南京で成立大会を開催したのはその年の七月、内地の新体制運動と連動する現地における国民運動として上海青年団が発足したのは翌八月、そして長谷川一夫・李香蘭のコンビによるあの映画「支那の夜」が上海の第二歌舞伎座で上映された<sup>(1)</sup>のも同じ月末のことである。

そして、現地の新聞・雑誌メディアの領域においてもこうした動向は勢いを増しつつあった。前年一月に上海で「上海日報」を吸収合併するかたちで邦字新聞「大陸新報」が発刊されたことがその筆頭に挙げられようが、本稿で取り上げる日本語の総合雑誌「大陸往来」の創刊も、これまた一九四〇年の出来事であった。

ところで、この雑誌について筆者は、戦争末期の上海に渡った日本人青年文学者の「中国」と向き合う姿を多彩な筆致で描き出した武田泰淳の小説『上海の螢』（一九七六年、中央公論社刊）の注釈的研究や、「大陸新報」の文芸文化関連記事の洗い出し作業にとりかかった八、九年ほど前からその存在を知り関心を抱いていた。ただ、その当時、こ

の雑誌は国立国会図書館に第五年第二号（一九四四年二月号 通算四十四号）から第五年第八・九合併号（一九四四年九月号 通算五十号）までの八冊しか所蔵されておらず、その全体像を把握するにはほど遠い状況にあった。

しかるに、近年になって同誌の第一巻第八号（一九四〇年十一月号）から第二巻第三号（一九四一年三月号）までと、第二巻第五号及び第六号（一九四一年五月号・六月号）の七冊を国立国会図書館が新たに入手して、二〇一三年十月から閲覧可能となった。さらに、それ以外の期間に発行された同誌のかんりの部分を所蔵しながら、長らく改装工事中で資料の閲覧ができなかった中国国家図書館（北京）の南館の利用も二〇一四年十一月から可能になった。このように、実際に本文を読むことのできる冊数が増えたことによって、完璧とまではいかなくても、管見では発行期間が五年に及び、通算では五十号を越える月刊総合誌「大陸往来」の全貌を捕捉し得る条件は整ってきつつあると言えよう。

以下、この小論では、同誌の前身にあたる「大陸交通倶楽部」の存在も含めて、創刊の年から翌年にかけての、いわば〈初期〉「大陸往来」に関する簡単な解題を試みるとともに、それらの目次を掲げることとする。紙幅の関係上、そこに掲載された作品群を通じて浮上してくる問題系の指摘とそれに対する考察、さらに一九四二年以降の「大陸往来」に関する言及とは続篇以降に回すことになろう。

\* \* \*

一九四〇年七月十七日発行の「大陸新報」第五百五十七号の三面下段に、「大陸交通」を改題した「大陸往来」の近日発売を告げる広告が載っている。「現地随一の綜合雑誌として本誌は茲に更生した」という見出しに続く本文を、やや長くなるが以下に全文引用しよう。

本誌は大陸交通俱樂部発行の建前で本年一月一日創刊され爾來各方面の御眷顧に依り不定期刊行ながら第四号まで続刊いたしました。が今回総領事館の館令による現地出版物規則改正を機に『大陸交通』の題号を『大陸往来』と改題し、次号から現地随一の月刊綜合雑誌として更生することになりました。購買者及広告関係に於かれては特にこの点をご了諾の上何卒一層の御声援を願ひます

尚八月号は上海戦記念特輯号として近日発売します

上海北四川路一三一一号 大陸往来社 電話四五六六三

尚編輯局は七月十三日を以て狄思威路浙興里の事務所を引揚げて右本社に移りました

すぐにも「大陸往来」の紹介へと筆を運びたいところだが、この文章を目にするとその前に「大陸交通」にも関心を向けざるを得なくなる。さいわい中国国家図書館には、同誌の創刊号（一九四〇年一月一日発行）と第三号（一九四〇年五月一日発行）とが所蔵されていたので、それらを通じてこの雑誌の性格のあらましをつかむことができた。

まず、この雑誌の発行母体となった大陸交通俱樂部なる団体は、創刊号に掲載された「発刊之御挨拶」及び「大陸交通俱樂部趣意書」によれば、「新東亜ノ建設秩序ノ更生」の秋にあたって大陸の「交通、運輸、産業」の開発と発展とに寄与貢獻しようとする「在支地方民間人」の集まりをもつて組織されたもので、本部を上海に置き、「大陸交通」はその機関誌として「現地編輯」体制をとつて発行されたものである。編輯の陣容は、主幹の松崎茂雄（奥付によれば彼は発行人にもなっている）を筆頭に、編輯局・総務局・事業部あわせて十名の個人名を創刊号では確認することができる。雑誌の発売所は創刊号、第三号ともに上海大連湾路にあつた三通書局である（のち北四川路文路角に移転）。一方、発行所である大陸交通俱樂部の所在地と編輯局のそれとは、創刊号と第三号とではそれぞれ違つていて、

前者の方は「上海北四川路十二号」から「上海老把子路三六四号」、後者の方は「上海北四川路一三〇五号」から「上海狄思威路浙興里十九号」となっている。

次に同誌の内容について若干のコメントを試みよう。その際、第三号は「国民政府改組還都慶祝号」として華文記事も含めた特輯形式を組んでいるのだが、この政治的イベントに関する記事の紹介は省略し、むしろ創刊号と併せて見た時に共通すると思われる記事の傾向の方に重点を置くことにする。そうすると、やはり何にもまして際立っているのが、「大陸開発」に直接関与する各種「交通機能」に関する情報の提示や提言といった記事の類である。創刊号では「中支の交通網―交通諸会社の展望」、「華中鉄道技術陣の凱歌―復興機械の自給自足策成る」、第三号では「日支親善捷徑の一方策として合弁の觀光旅行聯盟の設定を提案す」（松崎奎道）、「支那鉄道發達史（其ノ一）」（藤田三作）、「淮南線視察記」（秋田正男）などがそれに該当する。

こうした交通、運輸部門における「産業戦士」としての面目を前面に押し出してくる記事と並行して、「ツーリストビュロー」調べによる「中支への渡来コース」・「中支に於ける交通機関及び各都市旅行案内」などを掲げて觀光・旅行の資に供せんとしたり、編輯局の増田いく子記「轢き殺されたあの子のために」（創刊号）のような読み物風の記事を載せて、日常卑近なレベルから〈交通〉に対する読者の関心を惹起しようとしている点も、他紙にはない特徴であろう。

一方、一冊全体にあってその占める分量はさほど多くはないが、現地の文化人や宗教家が寄せた文や画の中にも注目すべきものがある。創刊号には編輯局からの依頼に応じて上海居留朝鮮人协会会长李甲寧が寄せた「舞踊家崔承喜を評す」が載っているし、第三号には松村天籟の「揚子江の旅」（文と絵）や石井淡水の「『前線短歌』に就て」と題する評論がある。興亜院調査官の勤務に就くかたわら「藝文会」のメンバーでもあり、軽妙で飄逸な画才を発揮するこ

とでよく知られた松村や、俳句同人会の蓬巷吟社同人であるとともに、やがては上海歌人社の結成と同社の機関誌「上海歌人」の創刊<sup>(2)</sup>にも与っていく石井の作品を載せていることからして、編輯サイドが現地文化を代表する書き手に対してそれなりの目配りを利かせていることがわかる。そのほか、高野山上海別院の木村澄覚による「弘法大師の入唐に就て」の連載二回目が第三号に見えるが、これは誌名が「大陸往来」に改題された後も続けられている。

\* \* \*

さて、ここでもうやく「大陸往来」に目を向けるとしよう。とりあえず今回は、一九四〇年から四一年にかけて発行されたもののうち、先述した国立国会図書館で閲覧可能となったものに、中国国家図書館に所蔵されている第一巻第七号（一九四〇年十月号）、第二巻第十号（一九四一年十月号）、第十二号（一九四一年十二月号）を加えた計十冊の目次を掲げることにする。それを通覧していただければ、「大陸交通」の改題とは言い条、誌面全体の編集方針が大きく様変わりしていることが容易に察知できよう。先に引用した「大陸新報」の広告中の言葉を借りて一言で言ってしまう、それは「現地随一の綜合雑誌」を目指しての記事が質・量ともに前身の雑誌を圧倒する勢いで盛り込まれていることだ。

その端的な現れとしてあるのが「最近の重慶解剖」、「現地的視角による新体制の考察」、「調印後の国民政府」、「現地生活ルポルタージュ」などと銘打って、ほぼ毎号のようにして組まれる特輯記事であろう。また、寄稿者の顔触れをみても、官民いずれからも上海の顔と呼び得る人々がずらりと並んでいるし、そうした人たちを集めて行われる「新体制」現地人座談会、「新支那学の構想（杉村博士を囲む新鋭座談会）」、「老上海が語る文化運動今昔譚」といった座談会も同誌の売りになっていると思われる。また、国外の著名ジャーナリスト・学者・評論家が重慶側のそれも

含めて他の新聞・雑誌に発表した文章の抄訳も多く、各国の新聞・雑誌メディアが激しい報道戦を繰り広げる租界都市上海の中で、大陸往来社がそれなりの情報収集能力を発揮していることをうかがわせるものとなっている。あと一点、文芸文化に関わる編集方針として、「現地創作」の欄を設けて毎号一―三作程度ではあるが、「現地」の特殊性を性格とする小説を掲載している点も注目されよう。ちなみに、ある程度は知られていることだが、一九四一（昭和十六）年度上半期の芥川賞を受賞した多田裕計の「長江デルタ」は、「大陸往来」一九四一年三月号に「現地創作」として掲載されたものである。

だが、こうした多岐にわたる同誌の特徴すべてを等しなみに扱い、それらについての網羅的な解説や紹介を行うことが本稿の目指すところではない。むしろそれに代えて、現地における文学動向や文化人の動静を探るにあたって同誌が提供してくる興味深い問題に焦点を合せた形で考察を行うつもりである。詳細は次号に譲るとして、現時点で予定している考察視点を挙げておけば、（Ⅰ）現地文学が描き出す〈青年〉像、（Ⅱ）現地文学に投影される〈室生犀星〉の影、（Ⅲ）上海に渡った女たちが提示する〈私〉だけの眺めの三点になろうか。

また、大陸の〈交通〉に軸足を置いた「大陸交通」から「現地随一の綜合雑誌」の体裁を持つ「大陸往来」へと誌面の性格が変化していく背景に、どういった出版事情が介在していたのかといった問題も探りたいところだが、その点に関わりを持つと思われる「総領事館の館令による現地出版物規則改正」の内容を筆者の調査では詳らかにすることができていない<sup>③</sup>とともに、おそらくそれを手にすれば改題の経緯に触れた文言も見られるかもしれない「大陸往来」の上海戦記念特輯号（一九四〇年八月号）も未見であるいま、遺憾ながら後日の課題とせざるを得ない。いまは初期「大陸往来」の発行者たる大輪一郎なる人物と大陸往来社に関する若干の情報を提示して、その責めを少しはふさいでおきたい。

さて、この大輪一郎の経歴だが、『中国紳士録 民国三十一年版』（東京・満蒙資料協会一九四〇年七月第一版、一九四二年七月第二版発行、テキストとしては金丸裕一監修『中国紳士録 上』（二〇〇七年 ゆまに書房）を使用）は、この人物を「サンパウロ珈琲店主、珈琲並雜貨輸出入貿易商」として紹介した後、以下「大正十五年五月渡滬。昭和三年七月大阪クラブ化粧品中山太陽堂上海支店太陽公司入店。七年七月独立。上海海甯路三二〇号に喫茶店「一茶」を創始。十三年十月更に頭掲珈琲店を開設、珈琲雜貨輸出入貿易商を創始。尚十五年七月現地綜合雜誌「大陸往来」を創刊之を主宰す」（読みやすさを考慮して句読点は引用者が施した）と記している。

文中に出てくる喫茶店「一茶」に関しては、一九三五（昭和十）年三月十三日発行の「上海日日新聞」（夕刊）第七四〇七号に、「新譜試聴会」という見出しで、コロムビアの代理店をしている乍甫路の栄商会と「一茶」がタイアップして、後者を会場として毎月の新譜レコード試聴会を開催するに至ったことを告げる記事が見える。それより少し前の時期にあたる記事でも、乍甫路のライオン、文路の新月支店など、虹口の料理業組合加盟店による喫茶店兼営が流行の兆しを見せる中にある、こちらの方は組合に加盟していないが店舗を拡張して相当の人氣を見せていると報じられていた「一茶」だが、こうした経営手腕によって大輪は上海邦人コミュニティにおける少壮実業家<sup>(4)</sup>として頭角を現し、現地出版事業に向けても身を乗り出していったのではないか。

もう一つの史料的价值を持つ『支那在留邦人人名録 第三十一版』（一九四一年九月 金風社）の方には大陸往来社が立項されており、そこには社長の大輪をはじめ計十一名の社員名が載っている。そのうち中国人社員は二名、また写真部部長の大輪松二郎の出身地は一郎と同じく山梨県となっているのでこの兩名は親族関係にあると推測される。

さらに注目されるのは、大陸往来社の所在地が「北四川路八七九号虹口ビル四階一―二号」と記載されていることだ。一九四〇年七月の「大陸新報」広告中で告げられていた「北四川路一三二一号」からこの地番に移転したこと

は、現在閲覧できる「大陸往来」の奥付を見る限りにおいては一九四一年五月号発行の時点であることがわかる（ついでに言えば、この時同誌の発売元も北四川路の三通書局から虹江路の中央書報發行所へと変っている）。だが、こうした雑誌単体の奥付を用いて確認するだけではなく、大陸往来社以外の新聞・出版関係企業のデータも同時に追うことのできる前出『支那在留邦人名録』を活用するなら、同盟通信社中支総局と福岡日日新聞上海支局もまた、それぞれ「北四川路八七九号虹口ビル」の六―七階と三階とにあったこともわかるのである。大陸往来社の情報網の広がりといった点についてはすでに言及しておいたが、このように同業に携わる他社が同じ大境内にあつて、それとの競合や協力関係がたちどころのうちに成り立つ環境下に社を置いていたことも、その点に与つていたかもしれない。

以上で「大陸往来」及びその前身にあたる「大陸交通」に関する基礎的情報の提示を終え、引き続き「大陸往来」の目次を掲げることしよう。

注(1) 一九四〇年八月二十七日発行の「大陸新報」に「支那の夜 前後篇」廿九日一般公開 第二歌舞伎座」の広告が出てい

る。

(2) 「上海歌人」の創刊は一九四一年三月。

(3) 「大陸往来」の一九四〇年十一月号には、同年七月二十三日附上海日本総領事館の認可を得て旧社名「大陸交通俱樂部」を「大陸往来社」と改名した「謹告」が出ているが、それ以上の詳しい情報は出ていない。

(4) 『中国紳士録』によれば大輪は明治三八年生れなので「大陸往来」創刊時は三五歳である。また、「サンパウロ珈琲宣伝販売店喫茶百花苑 漢口」広告（「大陸往来」一九四〇年十二月号）・「サンパウロ珈琲商店南京支店（南京市中山路新街口）広告（「大陸往来」一九四一年一月号）などによって、彼の事業が「中支」一帯に拡大していることもわかる。

\* \* \*



## 初期「大陸往来」（一九四〇年十月～一九四一年十二月）目次一覽

### 〔凡例〕

・各号の実際の「目次」では、作品（記事）の記載順が頁順になっていない箇所があるので、原則として頁順に合わせて記した。

・作品（記事）タイトルが「目次」と本文とで異なる場合は、原則として後者に従う。また、その際サブタイトルがあればそれも併せて記した。

・〔特輯〕が組まれている場合、その表記やそれに対応する各記事のタイトルが、「目次」と本文とで異なる場合があるが、両者を比較してどちらが適切であるかが判断できる場合はそれを採り、判断しかねる場合は原則的に本文の方を採った。また、〔特輯〕に該当する記事のタイトルには＊を付した。

・作品（記事）執筆者や座談会等出席者の肩書は、「目次」や文中に記されているものに限って記した。なお同一人物に関して同じ肩書が二回以上出てくる場合は、原則として初回のみ記すことにした。また談話筆記で筆者名が明示されている場合は括弧を付して記した。個人名ではなく編集部・調査部といった表記がある場合はそれを記した。

・作品（記事）内容について若干のコメントを要する場合、〈 〉を用いてそれを記した。

・〔随筆〕・〔現地創作〕・〔各地だより〕・〔詩〕などの見出しが、本文もしくは「目次」にあって付いているものはそれをそのまま記した。

・文芸作品中、タイトルだけではジャンルが判断しにくいものに関しては、タイトル下に括弧を付して（小説）・（詩）・（短歌）・（俳句）・（随筆）などと表記した。

・注目すべき社告は採り上げることとし、その都度タイトル上に（社告）と表記した。  
・人名表記については適宜新字体に改めた。明らかに誤植だと思われるものはその箇所にもママを付け、正しい表記をその後に「」を付して記した。

・そのほか、見易さや内容をチェックして表記を一部整序した箇所もある。

○一九四〇（昭和十五）年十月号 「新体制」発足号

表紙

工藤小馬次郎

扉絵

田川 憲

グラビヤ「江南秋の点描」

四頁

大陸往来時評

6

新民主々義論

〈冒頭に「本文は一九四〇年一月一五日赤都延安に於て「中国文化」の発刊に際して毛沢東の執筆せるもの、抄訳である」との編輯部の断り書きあり〉 7

中国に於ける憲政運動

中村三次 27

重慶の外力依存とその方向

坂爪精一郎 34

租界回収と和平前進

蘇 錫文 39

各地だより 蘇州よいとこ

黒木清二〔次〕 42

城外（詩）〈作品末尾に「蘇州城外風物詩」と記載〉

黒木清次 45

蒋政権の財政破綻

篠原勝也 46

重慶・抗日・統一戦線

巖久政二 50

抗日文化の殿堂―鲁迅芸術学院に就て―

対島洋平 55

各地だより 杭州さまさま

青木茂子 59

重慶政府の戦時教育

秋葉梧郎 60

重慶の法幣対策新現象

藤野信吉 63

弘法大師の入唐に就て（其ノ六）

高野山上海別院 木村澄覚 65

国民政府重要日記

調査部 68

支那新聞情報（政治、経済、文化）

調査部 70

租界メモの中から

編輯局 74

各地だより 南京の荒彫り

桜田秀明 78

重慶政治メモ 経済メモ

編輯局 80

秋詩抄

富安祥児 87

〈「古カバン」・「廃園」の二作品〉

虹口ユダヤ人問題

島邦善太 88

中国話劇運動史

徐慕雲著・中村三次訳 89

〈冒頭に徐慕雲の著「中国戲劇史」中の話劇に関する部分の全訳との訳者による断り書きあり〉

上海案内記（五）

河林晴二 93

支那常識講座（二）

編輯局 93（97三段組の下段）

大陸人物評論 上海居留民団助役 渡邊伍

（社告）「今月の俳句欄は撰者出張中につき休載」

各地だより 蚌埠おもかげ

重慶余聞 傳玉琳の脱走（二）

（社告）懸賞小説募集

大隅雅文 104

〔現地創作〕楊城物語（小説）

野上徹夫 109

〔同〕清濁（小説）

蘇我邦衛 124

支那官話講座（二）

編輯局 135

編輯後記

138

○一九四〇（昭和十五）年十一月号（第一卷第八号）

表紙・目次カット・扉絵

牧口鈔

グラビヤ（混乱の重慶）

四頁

大陸往来時評

6

中国共産党の「民主化」政策を暴く——国共相克の理論的根拠——

水木一郎 8

〔特輯 最近の重慶解剖 政治〕

\*重慶各党各派の趨勢

川崎正雄 20

\*重慶政府の外交政策

\*辺疆問題

各地だより 希望にかがやく 南京だより

新刊紹介

〔特輯 最近の重慶解剖 経済〕

\*工業合作運動の経過と実績

\*援蔣物資輸送ルートとしての寧波、温州

\*疎く重慶の交通

\*支那糧食問題の一般的所在―戦時支那糧食問題序論―

上海の新体制運動 民間有志愈よ動く

各地だより 秋ふかし 蘇州だより

〔社告〕懸賞小説募集

随筆 上海風俗寸感

〔特輯 最近の重慶解剖 文化〕

\*重慶の新聞政策

ブック・レビュー

\*重慶文学の方向

\*現代中国演劇論―その進展過程と今後の動向―

初期「大陸往来」の一瞥（上）

安藤次郎 4 0

西 雅雄 4 9

和木嘉郎 5 7

5 8

浅田 耕 5 9

及川朝雄 6 7

野坂 正 7 3

石川正義 8 2

9 9

黒木清次 1 0 0

1 0 1

徹翁居士 1 0 2

藤田秀雄 1 0 4

N 生 1 3 2

小泉 譲 1 3 3

竹内次郎 1 4 1

\*重慶政策 抗戦映画の動向

秋葉梧郎 149

重慶政治メモ

157

上海萬事始—シヤンハイ文化クロニクル（上）

169

現地の新経済体制

勝野信吾 175

各地だより 今日此のごろ 杭州だより

青田茂男 181

転換期の上海邦人商社—中支経済夜話—

大滬莊隱士 185

中支の経済事情 資料 外字・華字紙はかう言つて居る

191

支那常識講座

192（194三段組の下段）

軍票に挙る凱歌

204

上海綿業界概況

208

弘法大師の入唐に就て（其ノ七）（この回で完）

高野山上海別院 木村澄覚 211

地域別青年団の組織—上海青年団の拡大強化—

217

国民政府重要日記

218

（社告） 読者原稿募集

220

珈琲談義

静域生（目次では静城） 221

（社告） 謹告（昭和十五年七月二十三日附在上海日本総領事館の認可を得て旧社名「大陸交通倶楽部」

を「大陸往来社」と改名致居候）

222

租界メモの中から

223

支那官話講座 (3)

〔現地創作〕 ながれ (小説)

〔同〕 石羊 (小説)

詩 野戦病院 (作品末尾に「一九三八年のメモより」とあり)

〔同〕 春妹 (小説)

〔作品末尾に筆者の経歴とこの作を掲載するに至った経緯を記した編輯局による付記がある〕

新人創作 國見由紀夫 252

我妻隆雄 250

多田裕計 243

黒木清次 233

231

懸賞募集 大陸往来俳壇

上海 覆面子選 271

中支運輸界に氣を吐く杉本組の断面

273

編輯後記

274

○一九四〇 (昭和十五) 年十二月号 (第一卷第九号)

表紙・扉絵

牧口鈔

口絵写真 空

本社同人作

大陸往来時評

4

〔特輯 現地的視角による新体制の考察〕

\* 新体制に就ての一考察―現地人の視角より―

小岩井淨 6

\* 「新体制」現地人座談会

16

出席者 立石俊蔵 (山崎經濟研究所上海分室)・熊谷 康 (満鉄上海調査室)・松井松次 (上海青年団

初期「大陸往来」の一瞥 (上)

事務局長）・高橋良三（満鉄上海調査室）・水島治男（東亜公論社）大輪社長、浅田、米倉、川本各記者（本社側）

# 新刊紹介

\*日本の新体制はかくあらねばならぬ

安井源吾

32

\*新体制問題に就て―現地邦人に与ふ―

林 雄吉（上海各路聯合会長）

38

\*新体制と上海の生活者

白神栄松（在上海領事館警察署長）

41

\*現地新体制と経済人

栗本寅次（瀛華洋行専務）

42

〔第三国人の日本新体制観〕

〈編者による「まえがき」あり。第一論はH、G、W、ウッド、ヘッド主宰 Oriental Affairs 誌の社説、第二論は New York Times Magazine 誌に掲載された評論家 Hugh Byas の所論〉

\*第一論 日本の新国民体制―近衛声明に関連して― オリエンタル・アフエア

47

\*第二論 日本の新政治機構において軍部はファシスト国家で党が占めた地位にある

47

（社告）「特別原稿」募集○現地生活のルポルタージュ（職場報告）

49

ヒュー・バイアス

49

どこ迄続く邦商の悩み―中支経済夜話―

53

大滬荘隠士

54

# 外字紙の論調

55 〈58三段組の下段〉

ブック・レビュー 平野義太郎と天野元之助の対談 大陸（十一月号）の座談会

61

各地だより 西湖のほとり 杭州だより

青木茂子

62



(社告) 懸賞小説募集

奥地取引統制と上海經濟活動

上海萬事始—シヤンハイ文化クロニクル(下)

各地だより 塔と石たゝみの街 蘇州だより

抗日映画の崩壊

中支の經濟事情 資料 邦人各調査機關報告資料の抜粹

新体制と現地文学—文芸時評—

詩 津浦線(作品末尾に「中北支旅行詩のうち」とあり)

大陸人物評論 林雄吉

杉村廣藏

關北閑談

各地だより 躍進めざまし 蚌埠だより

兵隊官話物語り

支那常識講座

新短歌 猫

新俳句 自画像

(広告) 本誌新年号の偉觀 驀進「国民政府」の全貌

上海映画界へ警告

初期「大陸往来」の一瞥(上)

勝野信吉(目次では信吾)

6 3

黒木清次 7 4

辻久一 8 3

二藤二雄 1 0 4

黒木清次 1 1 8

米田徹平 1 2 0

山田浅右衛門 1 2 1

島影 清 1 2 2

小村英夫 1 3 3

吉村蝨聲 1 3 7

高橋春江 1 4 6

加藤清由 1 4 7

竹内次郎 1 5 0

1 3 8 (1 4 2 三段組の下段)

八一

租界メモの中から

152

重慶政治メモ 経済メモ 文化メモ

160

〔現地創作〕少女テレーゼ―上海碼頭風景―（小説）

小泉 譲

173

懸賞募集 大陸往来俳壇

上海 覆面子選

190

支那官話講座（4）

192

編輯後記

194

○一九四一（昭和十六）年一月号（第二卷第一号）

表紙・扉・目次カット

牧口鈔

グラビア（国民政府要人揮毫）

大陸往来時評

2

〔特輯 調印後の国民政府〕

\*更生国民党論

中井貞雄 4

\*日支国交基本条約締結とその意義

西田治雄 19

\*還都国府と憲政問題

河上 誠 27

北極閣

田中忠夫 37

\*国府の社会的基礎

田 春三 43

\*国交調印後の新情勢 和平・反共工作の方向

王 平 51

\*新政権下の華僑諸問題 南洋華僑再検討

名家隨筆1 青磁の色について

名家隨筆2 食後直感記

\*中支農村の再建―新政府の統治下に在りて―

\*調印後の經濟界動向―殊に上海經濟界の特殊性―

\*国民政府の文化政策

上海に於ける「幫」の研究

\*新中國婦人問題の対策

隨筆 AとBの話―上海風俗時評―

結婚適齡期

宣伝戰の本質

魔都上海の実態

歌 寒潮風情

上海に於ける第三國の權益問題

「はしがき」で、イヴニングポスト紙ならびにチャイナウイークリーレヴュー紙に經濟記事を発表しているユダヤ人ジョン・アーラーの論の集録だと紹介)

その一 上海の米國人權益に就て(文末に「一九四〇年十一月二日号」とあり)

その二 支那貿易における英米商社の活躍(文末に「一九四〇年十一月二十三日号」とあり)

初期「大陸往来」の一瞥(上)

鮑 振青 55

藏原蘇陽 60

須藤五百三 62

山田拓一郎 65

鈴木 健 78

楊 鴻烈 83

放生津太郎 92

萬 孟婉 110

木下通夫 120

島津 透 123

馬淵逸雄(安藤徳器記) 126

吉村螽聲 130

三浦桂祐 140

ジョン・アーラー 141

重慶政治メモ 経済メモ 文化メモ

新世紀への第一歩―新体制の脱皮作用―

日華条約と経済事情の変化―中支経済夜話―

郵政局を解剖す―重慶政權下にある郵政局を如何処理すべきか―

租界メモの中から

詩 鎮江

大陸人物評論 内山完造・濱本まし枝

中支の経済事情 資料 邦人各調査機関報告資料の抜粹

支那常識講座

河向ふ邦商繁昌記

〔「大陸新報」連載記事「河向ふ邦商繁昌記」（一九四〇年六月六日～十六日、計十一回）と一部内容が重複〕

中支那の狩獵さまぐ

国民政府新制国定記念日

〔現地創作〕 上海戦前後（小説）

〔「同」〕 枯草のある景色（小説）

懸賞募集 大陸往来俳壇

編輯後記

190（191三段組の下段）

戸叶里子 195

樋田針子 186

大木今日志 185

風波 清 168

大滬莊隠士 163

戸叶 武 157

149

美知丘生 204

213

本多恭之 215

中島徳之助 241

上海 定祥山人選 256

258

○一九四一（昭和十六）年二月号（第二卷第二号）

表紙・扉絵

牧口鈔 1

目次カット

江藤哲 2

グラビア（新政府の役人はかくして生れる）

大陸往来時評

6

民族資本の動員と上海の遊資―国府と重慶の争奪戦を観る―

長沼幸延 8

物価と文化

志摩雅夫 16

日・華子女問題 親善工作に就て

二神種茂 26

重慶統制下地域の研究 1 西康省の経済地理的概観

エル・ボブロフスカヤ 32

「はしがき」に、「本文は、ソ聯科学アカデミヤ世界経済世界政策研究所の発行にかかる「世界経済と世界政治」雑誌一九四〇年八月号所載の、エル・ボブロフスカヤ女史「西康省―その経済地理的概観」を「某ソ聯研究家」に翻訳してもらったとの断り書きあり」

上海ユダヤ人問題

42

重慶の抗戦軍力

エドガー・スノー 63

〔特輯 現地生活のルポルタージュ〕

\* 〔文化交流〕 宣伝部の一室

室伏クララ 70

\* 〔日語熱旺盛〕 日語学校の今昔

志 奇 75

初期「大陸往来」の一瞥（上）

*〔学生日記〕 学園の性格	藤村敬三	82
*〔ホテル覗き〕 番頭稼業	保定留夫	85
*〔教壇報告〕 人間道場	高塚土筆	87
*〔帰還者報告〕 南京のある日	國見由紀夫	89
*〔婦女会報告〕 施粥	春野 鶴	96
租界メモの中から		98
重慶政治メモ 経済メモ 文化メモ		125
詩 水菓	梓 雲平	132
各新聞の論調（南京の主張）（重慶の宣伝）		133
煙草工業の巻 中国生産事業の前途	ジョン・アラー	152
光ある濁流（小説）	大木雷作	157
中支の経済事情 資料 邦人各調査機関報告資料の抜粋		184
支那常識講座		
重慶統制下の新聞宣伝と新春の詞	古川信雄	191
黄色い国の画信 版画と文	田川 憲	194
河向ふパチンコ事件——一年間の統計——		196
〔現地創作〕 泥岸の詩（小説）	二藤二雄	201
懸賞募集 大陸往来俳壇	定祥山人選	226

186へ189三段組の下段へ

編輯後記

228

○一九四一（昭和十六）年三月号（第二卷第三号）

表紙・扉・カット

牧口象

口絵 春近し

本社写真部

大陸往来時評

4

新法幣の發展と通貨戰の展望——国民政府の重慶經濟攻勢始る——

水木一郎 6

重慶政權と憲政問題——共產黨圧迫と抗戰の強化——

小倉音次郎 17

米國最近の対極東動向

坂爪精一郎 31

世界の黎明——現地の視角より観る米國の態度——

古谷二郎（上海在勤海軍武官府囑託） 40

重慶統制下地域研究2 雲南省の經濟地理的概観

エル・ボブロフスカヤ（Y・M生訳） 46

文芸時評 現地文学の志向と段階——特に二三の現地作品に就て

蘇我邦衛 62

重慶政府の戰時教育思想

編輯局 78

〈冒頭に、本篇は重慶教育政策に關して「某華人」が執筆したもの的一部で「他の如何なる所へ發表せざるもの」の序論部分を訳したものとの断り書きあり〉

〔特輯 現地文化の動向〕

\* 中国美術に於る西洋画の位置——中支美術界展望——

田代博 94

\* 日華文化合作の考察 日本の映画・支那の映画

辻久一 100

初期「大陸往来」の一瞥（上）

八七

\* 和平運動と教育建設

徐 公美 1 0 9

\* 教育建設の理論と実際

ト 愈 1 1 5

\* 中国諸大学の内遷

E・H・クレッシー 1 2 1

\* 芝居に現はれた支那の風俗習慣―特に「家」に寄せて―

升屋治三郎 1 2 6

\* 現地児童教育問題（家庭教育に就て）

米山愛紫 1 3 3

\* 中国流行歌集（第一輯）

田 弘 1 4 5

\* 日語教育随想

島田正三 1 4 8

散華・新しき意匠（詩）

尾崎 徳 1 5 4

中支の経済事情 資料 邦人各調査機関報告資料の抜粹

徐 秀敦 1 6 0

中国青年は日本にて何を感じたか 東亜教育大会参列略記

紙屋三郎 1 6 1

各地便り 白木蓮咲く（蘇州）

紙屋三郎 1 6 1 〈1 6 8 三段組の下段〉

明孝陵と中山陵（南京）

堂山秀子 1 6 9 〈1 7 8 三段組の下段〉

（社告）写真部設置

1 8 0

随筆 お客を忘れな

内山完造 1 8 2

租界メモの中から

編輯局 1 8 5

最近の各新聞論調（南京の主張）（重慶の宣伝）

多田裕計 2 1 0

〔現地創作〕長江デルタ（小説）

定祥山人選 2 5 6

懸賞募集 大陸往来俳壇



※一九四一（昭和十六）年四月号（第二卷第四号）欠号

○一九四一（昭和十六）年五月号（第二卷第五号）

表紙

杉本英一

口絵 和平楽土に微笑む

本社写真部

扉

村尾絢子

カット

村井 信

大陸往来時評

4

上海経済と支那資本主義

杉村廣藏 6

新支那学の構想（杉村博士を囲む新鋭座談会）

12

出席者 杉村廣藏・飯田藤次（東亜研究所）・千葉成夫（総領事館）・瀧野正福（中支振興）・山村秀

雄（日本銀行）・山崎 進（満鉄）・大輪一郎（本社）

世界戦争の破局―起り得べき事態―

エドガー・スノー 44

〈冒頭に、本篇がアジア一月号に論輯されたスノーの世界戦争観であるとの断り書きあり〉

蔣政権と銃後運動に就て

安藤 新 64

上海と現地文化の建設

原 一郎 73

初期「大陸往来」の一瞥（上）

八九

重慶統治下研究 廣西省学生軍の現況（承前）

藤原津由夫 78

重慶文化メモ

88

北中支旅行記

志保田良三 90

〔特輯 今日の重慶〕

\* 重慶よ何處へ行く

96

〈冒頭に訳者の言葉として「ここに紹介するのは、上海イヴニング、ポスト紙の主筆であるランドオル、グウドの近著「今日の重慶」からの抜粋である」とあり〉

\* 深刻化一途の共産党問題

98

\* 経済界を強襲するもの

102

\* 和平陣よりみる重慶政府と共産党の軋轢

105

農夫 画と文

杉本英一 112

〔特輯 転換期上海租界の行方〕

\* 租界土地章程と工部局制度に就て

湯 良禮 114

\* 滬西警察協定問題

119

\* 共同租界改革の必然性

A・Tナツシユ 132

\* 納税特別大会―土地章程と選挙権の問題

138

〈文末に「オリエンタル、アフエイアー、三月号より」とあり〉

中支の経済事情 資料 邦人各調査機関報告資料の抜粋

144

座談会 老上海が語る文化運動今昔譚

148

出席者 Ⅱ 内山完造（内山書店主）・小久保三九郎（東方製氷重役）・島津四十起（金風社長）・須藤五

百三（須藤医院長）・蘆澤駿之助（蘆澤印刷所）・梶原國生（満鉄囑託）・升屋治三郎（演劇研究家）・

吉村秀聲（長江文学会員）・大輪一郎（大陸往来社長）

辺疆に於ける新聞の動向

長谷川信 167

重慶政治メモ

175

重慶経済メモ

178

崑曲盛衰の一考察―支那劇を司る異色の劇曲

林 正之 180

租界メモの中から

193

支那常識講座

197

〔創作〕建設（小説）

國見由紀夫 198

懸賞募集 大陸往来俳壇

定祥山人選 242

編輯後記

244

○一九四一（昭和十六）年六月号（第二卷第六号）

表紙

中井 敏

カット

小林 衛

口絵 蘇州河風景

写真部

初期「大陸往来」の一瞥（上）

大陸往来時評

2

占領地域に於ける文化建設―日本はかくの如く中国の文化資料擁護した―

興亜院文化局長

伊東隆治

4

封鎖問題管見

岸川忠嘉

22

石川三四郎氏に話を聴く

30

〈聴く人として「戸叶武・戸叶里子・後藤俊・森かな子・古賀久留美・両角澤」〉

現地青年問題を論ず―峻路に立つ青年―

美山 豊

52

資料 江西省南部開発三ヶ年計画

61

〈冒頭に「い」の一文は Hu Chang なる執筆者の名前で密勒氏評論報三月二十九日号及び四月五日号の

二号に亘つて連載されたものである」との断り書きあり〉

南京メモ

69

資料 八中全会と戦時三年建設計画

70

〔特輯 日ソ中立条約の世界的反響〕

82

\*日蘇中立条約に対し各国はかく観る

〔内紛拡大の重慶政府〕・「米国は斯くの如くうそぶく」・「英国は如何に打撃をうけるか」・「上海租界

各方面の論調をみる」・「日ソ条約と其後の国際情勢」の見出しを設けて各国紙の報道を紹介

95

\*日本外交の前進―日ソ中立条約を繞つて―

\*日ソ条約を如何に認識するか

106

〔上海周報（シャンハイ・ガーデン）四月十九日付に発表された論文の訳載〕

隨筆 揚子江縁起

廣田俊彦 1 1 3

新政権下地方自治の理論

李 宗 黄 1 1 8

〔上海文化団体特輯〕

\* 上海文化団体一覽表

1 2 6

\* 授産場訪問・山岸女史の婦女協進会―

1 2 7

\* 向上をめざす

東亜婦女会理事長

春 野 鶴 1 2 8

\* 童心提携―日華子女親善協会―

二 神 種 茂 1 2 9

\* 大きな役割―上海芸文会の歴史―

升 屋 治 三 郎 1 3 1

\* 長江文学会の生立ち

吉 村 秀 聲 1 3 2

\* 映画の大衆性を―映画研究会に与へられたもの―

1 3 6

\* 交響楽の普及―音楽同好会誕生―

1 3 6

\* 上海コードモグルツペ―SCG放送会について―

グルツペ同人

高 木 貢 男 1 3 7

\* 日支美術の交流

上海画廊

清 野 久 美 1 3 9

支那常識講座

1 4 5

改編新四軍問題

1 4 6

支那翰墨漫談

松 村 天 籟 1 4 8

重慶文化メモ

1 5 1

初期「大陸往来」の一瞥（上）

九四

隨筆 私の眺め

村尾絢子 153

米国の白銀と中国の通貨

155

工部局監獄の解剖―世界最大の経費と收容人員―

大利根郷 158

上海煙草業の調査

164

重慶政治メモ

174

重慶經濟メモ

176

隨筆 渡支即感

大日方傳 177

租界メモより

182

〔創作〕追放者の家（小説）

小泉 讓 184

懸賞募集 大陸往来俳壇

定祥山人選 214

編輯後記

216

○一九四一（昭和十六）年十月号（第二卷第十号）

口絵（写真）虎丘風景

碓氷呼和美

大陸往来社論 和平革命を闘争せよ

2

中日両民族への要望

汪 精衛（文責陳昌祖） 4

国民政府政治強化の重点

在南京・国民政府囑託 西邊群雄 8

国民政府強化の中心課題

宣伝部編審 金 志浩 17

独ソ戦争と抗日支那

立石 峻 2 2

英米南方攻勢の根拠

田知花信量(文責記者) 3 0

準戦時下米国と援蔣の再検討

同盟通信社中支総局記者 福澤延一 3 5

上海租界の新発展段階―敵性租界より共栄租界へ―

満鉄上海事務所第二調査室 眞鍋藤治 4 0

新情勢下の上海貿易

同盟中支記者 渡邊孟次 4 7

詩 城壁賦

南原凉二 5 6

経済講話第四回 報關業(通關業)と掛旗の話

栗本寅治 5 8

支那奇習百話(その一) 租妻風俗

飯谷太郎 6 8

重慶政治メモ

7 2

江南文化發展の根拠

廣田俊彦 7 4

中日文化合作の基盤

上海自然科学研究所員 西村捨也 8 6

外論叢苑

9 3

〔南方問題に関してフィリッピンイヴニングポスト紙に発表された論文の抄訳〕

泰国の脅威・石油と泰國・泰國と英米・泰國の態度・泰國と日本

通俗文化講座 人情・風俗第二話 美人を繞る文人・墨客

松村雄藏 1 0 0

重慶経済メモ

1 0 6

重慶研究 四年来・重慶国民党の行動 政治資料

1 0 8

〔重慶国民党中央執行委員会秘書長に就任した呉鉄城が党活動について略述したもの〕

重慶政權 抗戦経済の実態―第三次財政会議の批判―

前外務省情報部員 泉 信介 118

趣味案内 秋釣りは「ハゼ」から

熊崎跳魚 131

彩管に映じた中支の風物（現地画人が語る）座談会

132

出席者 井出岳水（日本画・井出商会）・白神峻峰（日本画・領警）・田代 博（洋画・女学校）・高

橋弘二（洋画・女学校）・堀場定祥（日本画・上紡）・松村天籟（日本画・興亜院）・村尾絢子（洋画）

〔現地創作〕異国に果つ（小説）

太田克己 158

〔現地俳句〕大陸往来俳壇

堀場定祥選 184

俳人言

定祥記（185三段組の下段）

編輯後記

186

※一九四一（昭和十六）年十一月号は十二月号「編輯後記」によると休刊。

○一九四一（昭和十六）年十二月号（第二卷第十二号）新発足号

社論 現地雑誌の役割と使命

2

〔特輯 日本政治力の結集と東亜の新事態〕

\* 日本政治力強化と東亜共栄圏の進路

水木一郎 4

\* 東亜共栄圏に於ける中国海運の再建

松井利明 9

\* 上海新経済体制の創造―英米勢力の後退と上海経済の変貌を中心として―



勝野信也（上海毎日新聞社經濟部記者）

\*日本の前進と重慶の恐怖

〔現地通信〕 上海往来

詩 泥土層—上海雜草原—

〔現地随想〕 外地行政所見

〔現地政治時評〕 四中全書と九中全書

共栄圈映画論への一提言

最近の支那新聞（南京の論調）（重慶の論調）

通俗文化講座 第三講 支那に於ける流氓の研究（一）

〔現地随想〕 随想 豆腐百態

〔研究・調査〕 張学良問題と人權運動

〔研究・調査〕 資産凍結と上海邦人紡績

支那異風俗百話（その二） 一妻多夫主義

〔現地通信〕 重慶往来

現地経済時評

重慶研究

南 一平 2 2

米田大徳 3 1

池田克己 3 2

三上英雄（民団議員法律家） 3 4

陳 一就 3 8

象川 潤 4 2

賀茂真人 5 3

内山完造 6 3

青木泰太郎 6 6

井口勝治（長江問題研究所上海調査室所員） 8 0

坂谷太郎 9 4

古川敏一 1 0 0

2 0 4

〔為替申請新辦法の公布〕・「財政破綻から地方公債濫発」・「米の援助不徹底に重慶不満」・「一党専制の攻撃に孫反駁す」・「ビルマの防衛英米蔣の合作」・「重慶戦車隊敗戦また敗戦」・「蔣の独裁暗黒政治

初期「大陸往来」の一瞥（上）

を悲難」の小見出し

大陸の話題

104（107四段組下段）

抗日内部指導勢力内訌の実態

加茂喜三 108

現地経済情報

119

〔現地通信〕 香港往来

鈴木真次 124

国際論調

125

「ソ連結局敗北か（米紙）」・「重慶戦時経済の概況（華紙）」・「比島の食糧危機（米紙）」・「困難なる援ソ輸送路（独紙）」・「為替政策の批判（華紙）」・「独ソ戦の帰趨（米紙）」・「比島空軍の増強（比紙）」・「独の秘密地図問題（独紙）」・「日米戦の可能性（伊紙）」・「重慶為替統制の失敗（華紙）」・「来栖大使の特派（日紙）」・「米の極東攻勢（米紙）」・「英米の術策暴露（伊紙）」・「第二戦線の展開（英紙）」・「ソ連の冬季攻勢（独紙）」の小見出し

〔現地通信〕 南京往来

樺山好三郎 131

現地文化時評

辻 徹平 132

現地生産工場を覗く（1）大中華製紙の巻

134

現地生産工場を覗く（2）亜細亜銅業の巻

135

小説 新市街日記

佐野 清 136

現地短歌 大陸往来歌壇・現地短歌道のために

148

現地俳句 大陸往来俳壇

堀場定祥選 149

俳人言

堀場定祥 149

編輯後記

150

【参考】なお、最後に「参考」として、本文でも言及した「大陸交通」創刊号と第三号の目次も以下に紹介しておく。

○「大陸交通」創刊号 一九四〇（昭和十五）年一月号

年頭の辞

松崎茂雄 1

発刊之御挨拶

2

大陸交通倶楽部趣意書・大陸交通倶楽部会則

4

大陸交通会館の設立

8

中支の交通網 交通諸会社の展望

10

生活と交通

奎道生 17

新中央政権ノ樹立ト東亜協同体ヘノ一考察

押田統輔 19

華中鉄道新旧名対照表

19（20四段組下段）

日章旗敬揚感念鼓吹に就いて

皇道山人 21

人物評論 生粹の鉄道男 華中鉄道副総裁田誠氏の才腕

千葉直 23

偶感隨筆

福成莞爾 25

初期「大陸往来」の一瞥（上）

九九

大日本海軍上海警備地区内自動車取り締まり規則 上海海軍特別陸戦隊発表

中支の各都市の交通機関

30 〈32三段組下段〉

轢き殺されたあの子の為に―母と姉のなげき―

増田いく子 36

交通事故防止と運転者の自己反省

松崎生 40

航空聯盟の誕生と使命

扇谷太郎 41

舟山小唄（白頭ぶし）

長井刀水 43

華中鉄道技術陣の凱歌―復興機械の自給自足策成る―

44

中支那忠靈顕彰会設立趣旨

47

舞踊家崔承喜を評す

李甲寧 49

中支への渡来コース

49 〈53三段組下段〉

中支那旅行についての手續と注意事項

51 〈53三段組上中段〉

東亜経済懇談会総会

54

交通禍防止座談会

54

昭和十四年度交通日誌

55

中支に於ける交通機関及び各都市旅行案内

58

大上海の歌 上海毎日新聞懸賞募集当選歌

62

〔随筆〕 黄包车綺談

浅田耕 63

暗夜の鉄路奇譚 馴染み芸者を轢いたある機関士の告白

華中鉄道機関士〇氏 65

愛路標語募集当選発表

65 〈66三段組下段〉

〈華中鉄道が大陸新報・新申報社後援のもとに実施〉

〔社告〕 大陸交通俱樂部新春の催し・「読者の声」欄を設く・本誌の陣容を整備

69

南京路に拾ふ（短歌三首）

刀水生 70

故郷の稲（詩）

不二夫 71

編輯後記

72

○「大陸交通」第三号 一九四〇（昭和十五）年五月一日発行

国民政府改組還都慶祝号 華文版特輯

〔特輯グラビヤ〕

還都を慶祝す・力強き第一声を放つ林柏生氏・世紀の会議目指して乗込む外人記者団・耳の姫君の奮闘ぶり・颯爽と檜舞台に乘込む汪精衛氏・王克敏氏も欣然と北支から・一陽来福の首都を嬉しさに歩く姑娘たち・孫文の靈廟に誓ふ汪代表首席・肅然と中山陵を下る汪氏一党・主を待つ中山陵先着の親衛隊・中央政治会議開く・歴史的会議の辞を述べる汪代表首席・会議第一日を終りトーキに収まる汪氏・紺碧の蒼空に揚る感激のアドバールン

慶祝国府還都〈華文〉

改組国民政府組織一覽

4

国民政府還都宣言〈日文・華文〉

6

初期「大陸往来」の一瞥（上）

一〇一

国民政府政綱發表

顧みる荊棘の道——和平運動の第三段階

脱出から還都まで

長崎県上海市実現へ

東亜建設の礎石成る

新国旗の正しい掲揚様式

堂々の前進に信賴

「還都慶祝紀念号」の發行を悦ぶ

対新中央成立之感和国人今後応有之認〔華文〕

對於中央政府之希望〔華文〕

〔社告〕九州に西部総局を開設「大陸交通」西部総局

敬告学生書〔華文〕

何日和平来（仿何日君再来曲調）〔華文〕

訪日視察簡記〔華文〕

歡迎汪精衛歌（仿木蘭從軍曲調）〔華文〕

大民会更新の宣言

〔社告〕本誌編輯局を「上海狄思威路浙興里十九号」に移転

大民会更新宣言〔華文〕

興亜院華中連絡部長官 津田静枝

上海居留民団助役 福田千代作

上海特別市政府秘書長 蘇錫文

碧雲

王魁

吳嗣全

大民会

8  
9  
1  
1  
2  
3  
3  
4  
5  
7  
0  
1  
2  
2  
5  
6  
1  
2  
3  
6

日支親善捷徑の一方策として 合併の観光旅行聯盟の設定を提案す

支那鉄道發達史（其ノ一）

淮南線視察記

豪華な記念事業 華中鉄一周年を迎ふ 華中鐵道に大觀光局を新設

これ位は識つて欲しい 簡単な自動車常識（其ノ一）

上海案内記

事変と租界—あの頃の思ひ出—

弘法大師の入唐に就て（其ノ二）

交通業關係者と生命保險—簡易保險の立場より—

上海と在留半島同胞—邦人各位は半島同胞を理解せられよ

大陸オーナードライヴァー聯盟の分科を設定す

孫文の遺訓に基き「興亜女学院」創立 院長に蘇錫文氏

中華輪船設立 長江航運に万全期す

簡易な自動車工学の研究 其ノ二

国産優秀船続々就航・上海福岡間日航機の新記録・鈴木興亜院政務部長・新浦に領事館分館・興亜院経

済部長日高氏栄転

揚子江の旅（文と絵）

『前線短歌』に就て

松崎奎道 3 8

藤田三作 4 1

秋田正男 4 7

T・X・Y記 5 3

河林晴二 5 7

6 3

高野山上海別院 木村澄覚 6 5

保險院上海出張員 大川太郎 7 0

上海居留朝鮮人会々長 李甲寧 7 2

松崎茂雄 7 4

7 8

大西健次郎 7 9

8 0

松村天籟 8 1

石井淡水 8 6

在留規則を守れ 違反すれば罰される

88 (三段組中・下段)

側杖くつた電車—P夫の話—

蒼瞳子 89

五月より事業開始—中華輪船の態勢成る 華中鉄道の旅客運賃値上

90 (三段組中・下段)

〔娛樂セクション〕 映画紹介〔海棠の歌・東京の女性・新妻問答〕 中華映画の其後

91

平和の使として遊撃隊の本拠を訪ひ許連生に逢ふの記

松崎正子 96

国防とモーターボート

S 生 99

東京支社通信 東亜競技大会の開催計画

100

〔南京版〕

邦人も聴て一万を突破

102

南京居留民会民団に昇格

103

女学校開設

103

筆頭は長崎県人

103

南京の華商六千件 其投資二百萬元

104

乗客よりも降客が多い 南京駅の蠅吐状況

104

南京の邦商 昨年末で九二七軒

104

県人会の分野

105

南京居留民会 新陣容成る

105

南京商工会議所役員

106



「首都飯店」開く

1 0 7

支那料理説明

1 0 7

南京市総商會・南京ホテル旅館業組合・南京旅館業組合・南京アパート業組合・南京居留民會評議員

〈各団体関係者一覽〉

新政府使用の建物割当

1 1 4

中山頼道氏中華航空へ転出・水上運輸の制覇へ・杭州蕭山間バス・華北交通の自動車路線延長

1 1 4

經濟的に見た南支

南支派遣軍報道部

1 1 7

大陸通信

1 2 0

日滿支連続線

1 2 3

大陸交通日誌 自昭和十四年一月十日至昭和十五年二月十五日

1 2 6

中支への渡来コース ツーリストビュロー調

1 2 9

中支に於ける交通機関及び各都市旅行案内 ツーリストビュロー調

1 3 1

三通書局 北四川路へ進出

1 3 4

中支那旅行についての手續と注意事項 ツーリストビュロー調

1 3 5

大民會の民衆運動一段と活発

1 3 6 (\*三段組下段)

華中鉄道バスの運賃及時間表

1 3 7

上海各府県市貿易駐在協會々員

1 4 1

編輯後記

1 4 2

〔付記〕 本稿執筆のための中国国家図書館所蔵分の「大陸往来」ならびに「大陸交通」の閲覧・入手にあたっては、北京日本学研究中心の秦剛副教授のご協力・ご援助をいただいたことを記して謝意を表したい。

（おおはし たけひこ・関西学院大学文学部教授）